

# 総 括 調 査 票

調査事案名	(30) 民間船舶の運航・管理事業			調査対象 予算額	令和4年度：2,663百万円 ほか (参考 令和5年度：2,742百万円)		
府省名	防衛省	会計	一般会計	項	艦船整備費	調査主体	本省
組織	防衛本省			目	公共施設等維持管理運営費	取りまとめ財務局	—

## ①調査事案の概要

### 【事案の概要】

島嶼侵攻対処や災害発生時には、自衛隊艦船の輸送能力だけでは不足する事態も想定されることから、民間海上輸送力を効果的かつ効率的に活用し、大規模な人員・装備品等の輸送を可能とする機動展開能力を強化するため、民間事業者による民間船舶（以下「PFI船舶」という。）の調達・維持管理・運航等を一元的に行う事業である。

- ・自衛隊の用に供していない期間は、管理運営事業者が独自の民間収益事業を実施できることとなっており、利益の一部を国庫に納付することとなっている。
- ・現契約では、輸送用船舶として、PFI船舶2隻を10年間で総額約250億円（平成28年から令和7年末）で運用中であり、契約総額の中で、維持管理・運航等に必要経費を毎年度、予算計上している。

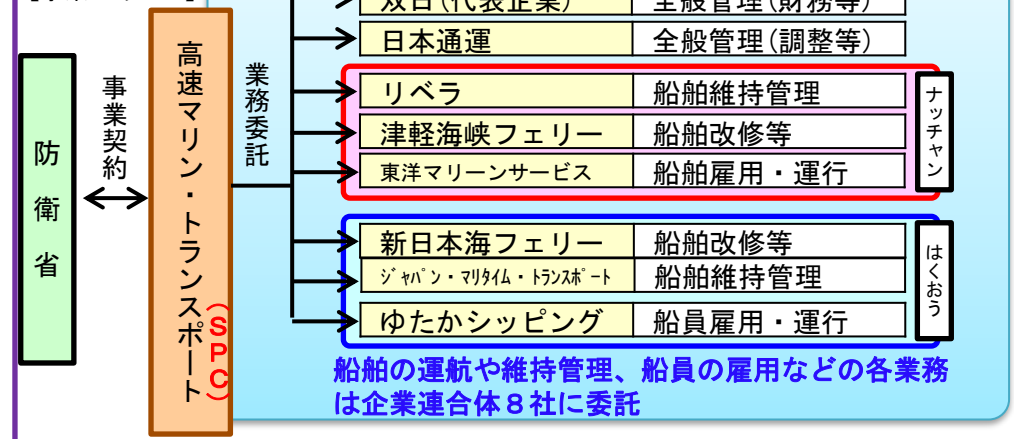
これまでの主な活用実績として、自衛隊訓練演習時の部隊・装備品輸送に加え、平成28年の熊本地震及び平成30年の北海道胆振東部地震における部隊・物資の輸送、被災者向けの休養施設（食事・入浴）等、災害時にも活用されているほか、令和2年のクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」の生活・医療支援等を行う自衛隊員等の活動拠点・宿泊場所等としても活用されている。

「防衛力整備計画（令和4年12月16日閣議決定）」では、「海上輸送力を補完するため、車両及びコンテナの大量輸送に特化したPFI船舶を確保する」とし、約0.1兆円を計上している。

### 【保有船舶】

 <b>ナッチャンWorld</b>	<b>【輸送能力】</b> 人員：508名 車両：大型トラック50両 小型トラック110両
 <b>はくおう</b>	<b>【輸送能力】</b> 人員：507名 車両：大型トラック200両

### 【事業スキーム】



### 【問題意識】

PFI船舶の運用に際しては、災害対応を含む有事等の用に供することを本務としつつ、それ以外の期間においても、自衛隊訓練での活用に加え、民間収益事業での活用も可能な契約となっていることも踏まえ、PFI事業で実施することにより期待される成果が上がっているか、活用実績を確認する必要がある。

また、今般策定された「防衛力整備計画」ではPFI船舶の確保が掲げられたことを踏まえ、活用実績の調査結果から、確保の際に必要な検討事項を洗い出す必要がある。

# 総 括 調 査 票

調査事案名 (30) 民間船舶の運航・管理事業

## ②調査の視点

### 1. PFI船舶の平素の稼働状況

PFI船舶の運用実態を把握し、平素において、どのように活用が図られているか、調査を実施する。

### 2. PFI基本方針との関係性

PFI船舶の運用実態が、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等に関する事業の実施に関する基本方針（平成30年10月23日閣議決定）」（以下「PFI基本方針」という。）で掲げられるPFI事業の実施による成果に沿っているものか、検証を実施する。

### 3. 運用パターン別取組状況

PFI船舶の運用状況を、運搬対象と運搬用途で類型化した上で、PFI船舶がどのような使途で利用されているのか、調査を実施する。

#### 【調査対象年度】

平成28年度～令和4年度

#### 【調査対象先数】

防衛省ほか：6先

## ③調査結果及びその分析

### 1. PFI船舶の平素の稼働状況

○稼働率（稼働率＝稼働日数÷稼働可能日数（契約上の日数から整備日数を控除した日数））

PFI船舶の契約開始時（平成28年度）から令和4年度末までの稼働状況を調査したところ、両船舶の稼働率については、ナッチャンWorldは8.0%、はくおうは10.0%であった。【表1】【表2】

さらに、稼働時の用途を調査すると、自衛隊訓練以外では、ナッチャンWorldは民間収益事業の割合が高く、はくおうは災害派遣利用の割合が高かった。これは、ナッチャンWorldは、HP上でイベント実績等を周知していることから映画イベントをはじめとするイベント利用が多く、はくおうは、入浴施設等を有するという船舶の特性から、西日本の台風や豪雨災害時の派遣、新型コロナウイルス対応（令和2年度に横浜港へ45日出航）での利用が多くなっている。

【表1】(ナッチャン)	稼働可能日数	稼働日数	稼働率	(うち訓練)	(うち災害派遣)	(うち収益事業)
H28年度	365日	6日	1.6%	6日	0日	0日
H29年度	311日	28日	9.0%	7日	0日	21日
H30年度	344日	66日	19.2%	7日	5日	54日
R元年度	356日	41日	11.5%	19日	11日	11日
R2年度	322日	19日	5.9%	19日	0日	0日
R3年度	365日	9日	2.5%	9日	0日	0日
R4年度	330日	23日	7.0%	23日	0日	0日
総計	2,393日	192日	<b>8.0%</b>	90日(3.8%)	16日(0.7%)	86日(3.6%)

【表2】(はくおう)	稼働可能日数	稼働日数	稼働率	(うち訓練)	(うち災害派遣)	(うち収益事業)
H28年度	365日	51日	14.0%	6日	41日	4日
H29年度	347日	25日	7.2%	5日	0日	20日
H30年度	350日	58日	16.6%	15日	40日	3日
R元年度	349日	74日	21.2%	27日	47日	0日
R2年度	351日	15日	4.3%	12日	3日	0日
R3年度	342日	13日	3.8%	13日	0日	0日
R4年度	353日	9日	2.5%	9日	0日	0日
総計	2,457日	245日	<b>10.0%</b>	87日(3.5%)	131日(5.3%)	27日(1.1%)

# 総 括 調 査 票

調査事案名 (30) 民間船舶の運航・管理事業

## ③調査結果及びその分析

### 2. PFI基本方針との関係性

「PFI基本方針」では、PFI事業の実施により期待される成果として、「財政資金の効率的利用」、「民間の事業機会を創出することを通じて経済の活性化に資すること」等が掲げられている。※本事業の導入決定当時のPFI基本方針（平成25年9月20日閣議決定）でも同内容が掲げられていた。

「財政資金の効率的利用」については、10年間で250億円を投じる事業であり、平時における自衛隊訓練等での活用も期待されるものであるが、前掲1.の【表1】、【表2】で示したとおり、自衛隊訓練での利用率はナッチャンWorldが3.8%、はくおうが3.5%となっている。

また、「民間の事業機会を創出することを通じて経済の活性化に資すること」については、「民間収益事業」での利用率はナッチャンWorldが3.6%、はくおうが1.1%であり、両船舶とも令和2年度以降の実績はなかった。

### 3. 運用パターン別取組状況

船舶の運搬用途を「自衛隊利用」と「自衛隊以外利用」の2種類とし、そのうち後者については運搬対象を「ヒト」または「貨物」に類型化した上で、PFI船舶の運営事業者へのヒアリングも含め取組状況を調査した。

調査結果は【表3】のとおりであり、PFI船舶の事業目的に馴染む自衛隊訓練での利用について見ると、PFI船舶の利用実績は船体規模や燃料の面から限定的であり、代わりに民間船をチャーターして利用しているという状況であった。

【表3】	自衛隊以外利用				自衛隊利用				
運搬内容	ヒト	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間収益事業の売上の内訳は下記のとおりであり、米軍輸送が総売上の7割を占めている。</li> <li>営業活動はHP等で実施しているが、問合せを受けても、燃料費等のコストが割高で実現に至らないケースも見られた。</li> <li>コロナの影響により、両船舶とも令和2年度以降民間収益事業の実績はない。</li> </ul>							
		ナッチャンWorld				はくおう			
		総売り上げ	2.1億円	総売り上げ	2.6億円				
		米軍輸送	1.5億円	米軍輸送	1.8億円				
		イベント等	0.6億円	イベント等	0.8億円				
貨物	<ul style="list-style-type: none"> <li>両船舶とも運営事業者による営業活動実績なし。</li> <li>運営事業者によると、貨物航路は定期航路が前提であり、スポット需要の取込みは困難との意見。</li> </ul>								

## ④今後の改善点・検討の方向性

1. PFI船舶の平素の稼働状況
2. PFI基本方針との関係性

PFI船舶は、維持整備や船員確保の面でコスト優位性はある一方、自衛隊による利用及び民間収益事業による利用率が両船舶とも1割以下の状況にある。したがって、財政資金の効率的利用に向けて、平素においても活用できる用途があれば、積極的に活用すべき。

現在の「防衛力整備計画」ではPFI船舶の確保が掲げられているが、確保に際しては、必ずしもPFI手法の導入ありきではなく、例えば、中古船舶の供給状況等も踏まえつつ、中古船舶を買い上げた場合との経費効率の比較や、PFI方式とする場合でも契約内容の見直しも含め、有効活用の方策を検討すべき。

### 3. 運用パターン別取組状況

（現行船舶）  
自衛隊訓練や米軍輸送の需要を取り込み、PFI船舶を積極的に活用すべき。  
特に自衛隊訓練については、護衛艦用とPFI船舶用の燃料の調達バランスを再考し、PFI船舶をより自衛隊訓練で活用できるようにすべき。

（防衛力整備計画での確保予定船舶）  
現在の「防衛力整備計画」では、PFI船舶の確保が掲げられているが、確保に際しては、有事における利用に加え、  
① 自衛隊訓練での利用  
② 民間収益事業（例：定期航路による貨物運搬、自治体訓練での利用）  
を柱とした有効活用に向けた方策の検討や中古船舶を買い上げた場合との経費効率の比較を前提とすべき。